



たま  
い  
玉井

ひろし  
大



ワンヘルス (One Health) につ  
いて

Q ワンヘルスとは人や動物の健康と、それを取り巻く環境を包括的に捉え、関連する人獣共通感染症などの分野横断的な課題に対し、関係者が連携して取り組む概念をいう。厚生労働省では、ワンヘルスの考え方を広く普及・啓発するとともに、分野間の連携を推進しているが、当町の取り組みは、普及・啓発については、厚生労働省、環境省、農林水産省の関係省庁間でワンヘルス・アプローチの取り組みを行なっており、徐々に拡がりをみせている。当町では具体的な普及・啓発について実施していないが今後とも国の動向に注視し、東京都をはじめ関係機関と連携を図りながら町民への情報提供につなげていく。

コミュニティ・スクール (学校運営協議会制度) について

Q コミュニティ・スクールは、学校と地域住民・保護者が力を合わせて学校の運営に取組むことが可能となる地域とともにある学校に転換するための仕組みで、この制度を導入することにより地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことができる制度である。当町としての取り組みは、

A コミュニティ・スクールの導入に当たっては「日の出町教育ビジョン2023」の基本理念に基づき、連携協働の学校づくりにかかわる関係者で構成する「日の出町コミュニティ・スクール創設準備連絡協議会」を設置し、協議内容を報告書リーフレットとして、まとめ広報・周知する。



なわ  
いきよこ  
縄井 貴代子



健康増進施策について

Q 聴覚補聴器活用への普及啓発と支援を。

A 難聴への早期発見と介入に関する仕組みの検討、補聴器に関する正しい知識の普及啓発に取り組む。支援は、近隣自治体の動向に注視し研究していく。

Q 予防接種管理やリトルベビーの成長記録等にも対応できるできる、電子母子手帳の導入は。

A 令和7年度から、電子母子保健のツールとして、子育て支援のアプリの導入を検討中。

大規模災害に備える携帯トイレ等の備蓄推進と避難所の「福祉的な支援」整備について

Q 携帯トイレ等の備蓄状況と今後について。

A 便袋タイプ7400枚・電動熱圧着トイレ12基 (600回分)・マンホールトイレ小・中学校5ヶ所に42基を整備している。町民

にも携帯トイレの備蓄をお願いしたい。

Q 介護や障がい者福祉施設における携帯トイレ備蓄状況について。

A 二次避難所となる、町内特別養護老人施設8施設中4施設、介護老人保健施設3施設中1施設が備蓄済み。障がい者施設3事業所と2次避難所とはならない1施設が備蓄済み。

Q トイレトレーラーの整備の検討について。

A 引き続き課題等を勘案し研究していく。

Q 「福祉的な支援」の整備について。

A パーテーション・簡易ベッドの設置を周知。二次避難所として利用できる災害応援協定を締結。

